

木材ニューズレター

木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(17年12月分)

1. 調査実施期間 平成17年 11月20日 ~12月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、FAXによりアンケート調査票を送受することにより実施した。

12月分の回答企業数は40社、回収率は70.2%である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

$$\text{Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス)} = \{(\text{「増加」の評価を行った回答の割合}) \times 2 + (\text{「やや増加」の評価を行った回答の割合}) - (\text{「減少」の評価を行った回答の割合}) \times 2 - (\text{「やや減少」の評価を行った回答の割合})\} \div 2$$

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		17/12月	18/1月	2月
仕入動向	国産材	△ 7.6	△ 9.1	△ 7.6
	外材	△ 13.2	△ 18.4	△ 13.2
販売動向	国産材	△ 13.6	△ 7.6	△ 6.1
	外材	△ 3.9	△ 10.5	△ 7.9
在庫動向	国産材	△ 12.1	△ 4.5	△ 9.1
	外材	△ 15.7	△ 18.6	△ 17.1

仕入れは、1~2月に国産材、外材とも若干の上下はあるがマイナス幅でほぼ横ばいである。
販売は国産材がマイナス幅をやや小さくし回復基調へ、外材は小さなマイナス幅で横ばいである。
在庫の1~2月は国産材、外材とも、多少マイナス幅に上下があるがほぼ横ばいである。

(2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	17/12月	18/1月	2月
スギ正角(グリーン)	△ 1.9	△ 3.7	△ 1.9
スギ正角(KD)	2.0	0.0	0.0
ヒノキ正角	△ 3.7	△ 3.7	0.0
ヒノキ土台角	△ 3.8	△ 3.8	0.0
米ツガ正角(現地挽)	32.6	26.1	11.4
米ツガ防腐土台角	12.5	10.4	4.2
米ツガ割物(現地挽)	37.0	30.4	17.4
米マツ平角	27.1	27.1	16.7
北洋アカマツタルキ(現地挽)	25.0	18.2	15.9
ホワイトウッド集成管柱	4.8	19.0	9.5
レッドウッド集成平角	13.2	15.8	7.9
型枠合板(国産)	47.4	28.9	10.5
型枠合板(輸入)	47.5	35.0	12.5
針葉樹合板	44.7	31.6	18.4

スギ、ヒノキの構造材は、1~2月小さなプラス幅、ゼロと堅調な推移である。
米ツガの正角、土台等大きなプラス幅を縮小しているが好調を堅持している。米マツ平角は大きなプラスで若干の縮小あるが絶好調である。
北洋アカマツタルキは大きなプラス幅で縮小傾向推移だが好調である。
ホワイトウッド集成材管柱は、1月一気にプラス幅を大きくし、2月ややプラス幅戻している。レッドウッド集成平角はプラス幅で堅調な推移だが、2月やや縮小している。
合板は、極めておおきなプラス幅を1~2月に縮小するが絶好調の推移である。

<参考>木材製品の荷動き・価格先行動向調査

(数値は回答に対する割合)

1. 荷動き

単位:%

品目		17/12月	18/1月	2月	
仕入動向	国産材	増加	3.0	3.0	6.1
		やや増加	9.1	9.1	0.0
		横ばい	57.6	57.6	69.7
		やや減少	30.3	27.3	21.2
		減少	0.0	3.0	3.0
	外材	増加	0.0	0.0	0.0
		やや増加	13.2	7.9	7.9
		横ばい	55.3	52.6	63.2
		やや減少	23.7	34.2	23.7
		減少	7.9	5.3	5.3
販売動向	国産材	増加	0.0	0.0	3.0
		やや増加	12.1	9.1	3.0
		横ばい	48.5	69.7	75.8
		やや減少	39.4	18.2	15.2
		減少	0.0	3.0	3.0
	外材	増加	2.6	0.0	2.6
		やや増加	21.1	10.5	2.6
		横ばい	44.7	63.2	76.3
		やや減少	28.9	21.1	13.2
		減少	2.6	5.3	5.3
在庫動向	国産材	増加	3.0	3.0	3.0
		やや増加	9.1	6.1	0.0
		横ばい	51.5	72.7	75.8
		やや減少	33.3	15.2	18.2
		減少	3.0	3.0	3.0
	外材	増加	0.0	0.0	0.0
		やや増加	11.4	2.9	0.0
		横ばい	48.6	62.9	71.4
		やや減少	37.1	28.6	22.9
		減少	2.9	5.7	5.7

2. 価格動向

品目		17/12月	18/1月	2月
スギ正角 (グリーン材) 10.5×10.5cm ×3m	上昇	0.0	0.0	0.0
	やや上昇	0.0	0.0	0.0
	横ばい	96.3	92.6	96.3
	やや下落	3.7	7.4	3.7
	下落	0.0	0.0	0.0
スギ正角 (KD材) 10.5×10.5cm ×3m	上昇	0.0	0.0	0.0
	やや上昇	4.0	4.0	0.0
	横ばい	96.0	92.0	100.0
	やや下落	0.0	4.0	0.0
	下落	0.0	0.0	0.0
ヒノキ正角 10.5×10.5cm ×3m	上昇	0.0	0.0	0.0
	やや上昇	0.0	0.0	0.0
	横ばい	92.6	92.6	100.0
	やや下落	7.4	7.4	0.0
	下落	0.0	0.0	0.0
ヒノキ土台角 12.0×12.0cm ×4m	上昇	0.0	0.0	0.0
	やや上昇	0.0	0.0	0.0
	横ばい	92.3	92.3	100.0
	やや下落	7.7	7.7	0.0
	下落	0.0	0.0	0.0

品目		17/12月	18/1月	2月
米ツガ正角 (現地挽) 9.0×9.0cm 10.5×10.5cm ×3~4m	上昇	8.7	8.7	4.5
	やや上昇	47.8	34.8	13.6
	横ばい	43.5	56.5	81.8
	やや下落	0.0	0.0	0.0
	下落	0.0	0.0	0.0
米ツガ防腐 土台角	上昇	0.0	0.0	0.0
	やや上昇	25.0	20.8	8.3
	横ばい	75.0	79.2	91.7
	やや下落	0.0	0.0	0.0
	下落	0.0	0.0	0.0
米ツガ割物 (現地挽)	上昇	13.0	4.3	4.3
	やや上昇	47.8	52.2	26.1
	横ばい	39.1	43.5	69.6
	やや下落	0.0	0.0	0.0
	下落	0.0	0.0	0.0
米マツ平角	上昇	0.0	0.0	4.2
	やや上昇	54.2	54.2	25.0
	横ばい	45.8	45.8	70.8
	やや下落	0.0	0.0	0.0
	下落	0.0	0.0	0.0
北洋アカマツ タルキ (現地挽)	上昇	0.0	4.5	4.5
	やや上昇	50.0	27.3	22.7
	横ばい	50.0	68.2	72.7
	やや下落	0.0	0.0	0.0
	下落	0.0	0.0	0.0
ホホワイトウッド 集成管柱 (5層国内産)	上昇	0.0	4.8	4.8
	やや上昇	23.8	33.3	14.3
	横ばい	61.9	57.1	76.2
	やや下落	14.3	4.8	4.8
	下落	0.0	0.0	0.0
レッドウッド 集成平角	上昇	0.0	0.0	0.0
	やや上昇	26.3	31.6	15.8
	横ばい	73.7	68.4	84.2
	やや下落	0.0	0.0	0.0
	下落	0.0	0.0	0.0
型枠用合板 (国産品)	上昇	10.5	0.0	0.0
	やや上昇	73.7	57.9	21.1
	横ばい	15.8	42.1	78.9
	やや下落	0.0	0.0	0.0
	下落	0.0	0.0	0.0
型枠用合板 (輸入品)	上昇	10.0	0.0	0.0
	やや上昇	75.0	70.0	25.0
	横ばい	15.0	30.0	75.0
	やや下落	0.0	0.0	0.0
	下落	0.0	0.0	0.0
針葉樹 構造用合板	上昇	5.3	0.0	5.3
	やや上昇	78.9	63.2	26.3
	横ばい	15.8	36.8	68.4
	やや下落	0.0	0.0	0.0
	下落	0.0	0.0	0.0

<モニターからのコメント>

- 米マツ一般材丸太では、米国の港頭在庫は増えているものの、依然米国内向け丸太引合いが好調なことから、日本向けは買い付け価格水準を引き上げるしかなく、輸入元、問屋とも益々深刻な状況となっている。(東京:問屋)
- 急速な円安が仕入れ原価の上昇を招いているが、販売量および単価に顕著な形であらわれてこないのが、辛いところである。仕入れを絞ることで対応するしかない。(東京:問屋)
- 米材の急激な値上げに対応できない場合、樹種変更か工法変更が出てくるであろう。(東京:問屋)
- 外材の高値により仮需的な物の動きがみられる。忙しいが動きが良いのは価格の安いいわゆるすそ物だけ。(東京:問屋)
- 南洋材産地は雨季入りで出材が減少。中国材はロシアからの原木入荷が遅れていて原木高の状態。(東京:問屋)
- マンション耐震強度問題が木造建築にどう影響するか。木造戸建住宅への移行に期待すること大である。(東京:問屋)
- 冬期の不需要期入りと年末年始でこの時期は例年販売不振となるが、円安と現地高に依るコストアップで輸入材は強気配。(東海:問屋)
- 工務店の繁閑の差が今年は特に大きい。例年は年末に工期1週間程度の工事があるのだが、今年は全くない。諸々仕入れ値上昇の気配が出てきたがどうなるか。(東京:仲買小売)
- 生産地、輸送関係の都合でコストアップになると思うが、需要から見るとまだまだ大きな値の動きは無いのではないか。(東京:仲買小売)
- 近隣の材木店2軒が廃業した。売上げに見合う店舗面積にして、余裕の出た土地は賃貸にまわす。木材販売は縮小傾向に移行。(東京:仲買小売)
- 仕事が細かく、売上げの絶対量が目標に届かない。(東京:仲買小売)
- ・マンション関係が好調なため、タルキ関係の荷集めに苦勞している。
・現在は小幅でおさまっているが、値上げの状況は揃っている。(東京:仲買小売)